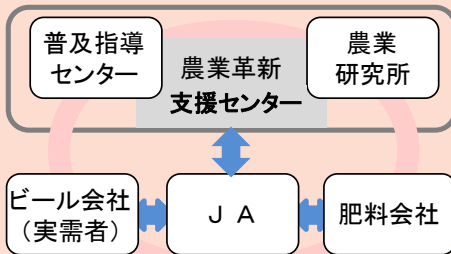


- 県内の麦生産では、子実の粗タンパク含量が低く、ビール醸造用として売るためには粗タンパク含量の適正化が課題。
- タンパク含量の向上には、生育後半の追肥が効果的であるが、施肥作業労力の負担が増えるため、農家が容易に取り組める追肥不要の肥効調節型肥料の開発と普及定着がポイント。
- **コンソーシアム活動により**、新たな省力基肥一発肥料を普及。目標普及面積を1,000haとし、実需者ニーズに即した高品質大麦の産地形成を図る。

## 具体的な成果

- 1 **コンソーシアムによる新肥料の開発**  
 ■コンソーシアムの活動により、収量を維持しながらタンパク含量の適正化を目指した**追肥不要の新肥料を1銘柄開発販売**。



- 2 **新技術の普及定着**  
 ■コンソーシアム活動の活発化、実証・展示ほ等の成果により、新技術が広く普及。  
 ■新肥料を用いた栽培体系を栽培暦に反映させることで、新技術が広く普及。

(普及面積 0ha → 352ha)



## 普及指導員の活動

- 平成26年度～28年度
- 農業革新支援センター、普及指導センター、農業研究所、JA、肥料会社等による**コンソーシアム形成**
  - 新技術導入に向けた実証・展示**  
麦用新肥料の現地適応性を確認するため、各地域に現地実証ほを設置
  - 現地検討会・研究会の開催**
- 平成28年度～30年度
- 実証ほ等の成果をとりまとめ、各地域で**新技術導入研修会を開催**。
  - コンソーシアムの活動により、各地域への普及定着を図る。

## 普及指導員だからできたこと

・**コンソーシアム形成**により、関係機関との連携が強化されて、関係者の意識共有が図られることで、新技術の普及定着が促進した。

・農業革新支援専門員の調整ならびに指導力を発揮し、**実証ほの設置効果を高めた**。

## 売れる高品質麦の生産拡大

活動期間：平成24～30年度

### 1. 取組の背景

県内の麦生産では、子実の粗タンパク含量が低く、ビール醸造用として売  
るためには粗タンパク含量の適正化が課題である。タンパク含量の向上には、  
生育後半の追肥が効果的であるが、施肥作業労力の負担が増えるため、農家  
が容易に取り組める追肥不要の肥効調節型肥料の開発と普及定着がポイント  
と考えられた。

### 2. 活動内容（詳細）

課題解決のため、関係機関の連携強化を目的とするコンソーシアムを形成  
し、新たな省力基肥一発肥料を開発・販売し普及した。目標普及面積を1,000ha  
とし、実需者ニーズに即した高品質大麦の産地形成を図った。

#### (1) 平成26年度～28年度

- ・農業革新支援センター、普及指導センター、農業研究所、JA、肥料会  
社等によるコンソーシアムを形成し、新技術の普及定着および新肥料の  
開発・販売を目指した。
- ・新技術導入に向けた実証・展示  
大麦用新肥料の現地適応性を確認するため、各地域に現地実証ほを設置  
した。
- ・現地検討会・研究会を開催し、新技術の普及を図った。
- ・実証ほ等の成果をとりまとめ、各地域で新技術導入研修会を開催した。
- ・コンソーシアムの活動により、各地域への普及定着を図った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) コンソーシアムによる新肥料の開発

コンソーシアムの活動により、収量を維持しながらタンパク含量の適  
正化を目指した追肥不要の新肥料を1銘柄開発販売した。

#### (2) 新技術の普及定着

- ・コンソーシアム活動の活発化、実証・展示ほ等の成果により、新技術  
が広く普及した。
- ・新肥料を用いた栽培体系を栽培暦に反映させることで、新技術が広く  
普及した。
- ・新技術の普及面積が0ha から352haに増加した。

### 4. 農家等からの評価・コメント（岡山市麦作農家I氏）

追肥が不要であり効率的だし、収量を維持しながらタンパク含量も向上で  
きて、よい技術だと思う。

## 5. 普及指導員のコメント（前 普及推進課 主幹 大家理哉）

実需者が求める品質基準を達成し、かつ生産農家が安定的に収量を確保できるような肥料の開発と普及を支援した。ビール用大麦については実需者ニーズの変化が大きく、それに伴う品種の変遷が早いため、今後もこのような活動をベースに関係機関と連携を図りながら、売れる高品質麦の生産拡大を組織として支援できればと考える。

## 6. 現状・今後の展開等

今後は、コンソーシアムの活動を通じて、各地域への普及定着を図る。